

ピヨピヨとピンポンは視覚障がい者の道しるべ

朗読者 今村敦子

音響式信号機の音「ピヨ、ピヨ、カッコー、カッコー♪」

- この音、皆さんも街なかなどで聞いたことがあるでしょう。そう、
5 信号機の音です。警察庁によると、音の出る「音響式信号機」は、
全国に1万9千500台ほどありますが、そのおよそ98%がピヨピヨと
カッコーの組合せになっています。以前は『麦畑』や『通りゃんせ』
などのメロディ式もたくさんありましたが、短い音の方が瞬時に聞
き分けられるため、増えてきたそうです。実はあの音は、ピヨピヨ
10 が東西方向、カッコーが南北方向を意味していて、視覚に障がい
ある人の道しるべになっています。
では、こちらの音は、何でしょう？

「改札のピンポン音」

- 15 この音は、博多駅や、福岡市の総合図書館などの大きな施設で流
れている「誘導チャイム」というものです。ピヨピヨとカッコーと
同じく視覚に障がいのある人のために、有人改札口や施設の出入口、
階段などの場所を知らせています。

- 20 他にも、歩行が困難な方や車椅子の方のための、転倒を防ぐため
のトイレの手すり、階段横のスロープなど、日常生活に不自由を感
じる方のために作られたものは、街じゅうにたくさんあります。

また、物理的なバリアーだけでなく、障がいのある人に対する誤解や無理解、偏見などに基づく心理的なバリアーも、障がいのある人の社会参加を妨げます。

さまざまな環境の整備や合理的な配慮がなされることで、障がいのある人もない人も、同じ時間と空間を、共に生きることができ、一人一人が、障がいのある人が感じる不便さ、暮らし辛さを理解し、配慮することによって、「すべての人が個人として尊重される社会」の実現を目指していきましょう。